

5 環境教育の充実

21世紀に生きる子どもたちには、環境や自然と人間とのかかわり、環境問題と生活様式とのかかわりなどについての理解に基づき、環境の保全やよりよい環境の創造、持続可能な社会づくりのために主体的に行動できる実践的な態度や資質、能力を育成することが求められています。

(1) 中学校における環境教育の推進

今年度、国立教育政策研究所教育課程研究センターが「環境教育指導資料 [中学校編]」を作成し、ホームページ上に公開されています。中学校における環境教育は、小学校からの環境教育の蓄積を受け、高等学校への架け橋となるものです。

下記は、「環境教育指導資料 [中学校編]」を簡単に整理したものです。本資料の校内研修等での活用をお願いします。

【中学校における環境教育のねらい】

環境に対する豊かな感受性の育成

自分自身を取り巻くすべての環境に関する事物・現象に対して、興味・関心を持ち、意欲的に関わり環境に対する豊かな感受性をもつことができる。

環境に関する思考力や判断力の育成

様々な自然、社会の事物・現象の中から自ら環境に関する課題を見いだして、多面的、総合的に解決していく課題解決の力や、追究する課題についての知識や技能とともに、データや根拠に基づき、適切な判断を行おうとする環境に関する思考力や判断力を身に付ける。

環境に働き掛ける実践力の育成

持続可能な社会の構築に向けて、自ら責任ある行動を取り、他者との合意形成を図りながら協力して問題を解決していく実践力を培う。

■ 【身に付けさせたい能力や態度 (例)】

環境を感受する能力

問題を捉え、その解決の構想を立てる能力

データや事実、調査結果を整理し、解釈する能力

批判的に考え、改善する能力

環境に興味・関心を持ち、自ら関わろうとする態度

公正に判断しようとする態度

合意を形成しようとする態度

情報を発信しようとする態度

自ら進んで環境の保護・保全に寄与しようとする態度

関連付け

・各教科
・道徳
・特別活動
・総合的な学習
の時間

【環境を捉える視点 (例)】

- ・資源の循環
- ・自然や生命の尊重
- ・生態系の保全
- ・異文化の理解
- ・共生社会の実現
- ・資源の有限性
- ・エネルギーの利用
- ・生活様式の見直し

